

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000642		
法人名	特定非営利活動法人 大地		
事業所名	認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	〒997-0167 山形県 鶴岡市 羽黒町 赤川 字 熊坂 47番3		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 20 日	開設年月日	平成 17 年 3 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 3 日	評価結果決定日	令和 5 年 3 月 22 日

認知症高齢者グループホームなごみ(鳥海通り)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地に近く、月山・鳥海山が一望できる自然豊かな農村地域に開設し18年。ボランティアの方々や地域住民の協力を得ながら、地域密着型の質の高いサービス提供を目指しております。また、毎年6月には、庄農の生徒さん達が育てた花の苗を、地域の皆さんの協力を得て植栽し、晩秋まで綺麗に咲き誇る花を眺めながら散歩するなど、自然に親しむ機会を多く持っており、地元老人クラブの要請を受けて毎月開催している『歌笑のつどい』は150回を超え、ご利用者様と職員が一体となり歌・演奏・踊りなどを楽しんでおります。

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

※上記アウトカム項目の中で、No.59・No.63・No.64の取り組みについては、新型コロナウイルス感染症が発生していない状況においての取り組みの成果であり、通院以外の外出については慎重にならざるを得ない状況であり、ドライブ等の外出もコロナ前に比べ極端に少なくなっております。また、現在はご家族・地域の方々の訪問は規制している状況で、運営推進会議についても書面での報告とさせていただきます。

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者・家族・地域住民・職員の4視点から定めた目標を基本理念として玄関や事務室に掲げ、その理念を毎朝朝礼で唱和し、実践につなげられるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の発生以降、従前取り組んでいた地域の一員としての地域行事への参加や、老人クラブのみなさんを事業所の行事へ招待することはできなかったが、今年も花壇・畑づくりには協力をいただき、ご利用者様とのつながりをもっていただいた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設以来、積極的に地域との交流を続けてきた中で、現在は認知症の人に対する理解も深まり、支援方法についてなどを相談できる場として地域の人たちから認識されているものと思っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染拡大防止の観点から5月のみの開催となり、他は書面報告に留まっており、それに対する意見を電話等で何うようにしているが、開催の折にはサービス状況等の報告を行った後に参加者と率直に意見交換し、サービスの向上に活かすようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の月2回の訪問や、運営推進会議での行政関係者との意見交換など、日常的に連携をとってきましたが、新型コロナウイルス感染症発生後は電話で相談したり、ご指導をいただくなどして連携している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者の尊厳を守ることを第一に考え、開設当初から玄関の施錠は行わず出入り自由となっている。また、「身体拘束適正化指針」を定め、適正化委員会(運営推進会議)での確認、職員研修の開催や、全体会議での報告確認を行うと共に、運営推進会議(資料)での報告を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議等で虐待防止に関する研修を行い、全職員が虐待に関する理解を深め、不適切なケアを見逃さないケアに努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年度は研修の機会を得ることはできませんでした。が、制度を希望する入居者がおり、本人と関係機関との橋渡しを行ったり、申請書類の作成支援などの援助を行った</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時や解約時においては、利用者や家族が不安を抱くことがないように十分な説明と対応を行うよう心掛け、また、利用途中で改定等を行う場合は、運営推進会議の場で提案し、理解・納得をいただいた上で実施している</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族全員を運営推進会議の構成員としており、意見交換で出された意見等を反映させるようにしていたが、今年度は書面での会議となっている為、洗濯物の受け渡し時や電話等で積極的に要望等をお聴きするようにしている。また、利用者からは日常の会話や表情から読み取るようにしている</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人代表や事務局長が常駐しており、毎月の全体会議に出席し、その中で職員の意見や提案を求めたり、また、年1回以上の職員との個別面談の際に、運営に関する意見や提案を聞くなどして、それを反映させている</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>育児休暇の取得や労働時間の短縮等、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に取り組んでいると共に、職員が向上心を持って働けるように、資格取得に向けた支援を行ったり、勤務状況の把握を行い、疲労やストレスにも気配りしている</p>		
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の学びの重要性を認識し、それぞれの立場や経験を踏まえながら、段階に応じた研修会への積極的な参加を奨励・支援している。また、内部研修会で研修内容を伝達することで、全職員の資質の向上につなげている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナ禍の為、種々の外部研修に参加することで同業者との直接的な交流はできませんでしたが、リモートでの交換実習に参加し、他施設の同業者と意見交換ができた		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面会し、困っていることや不安に思っていること、また、生活歴や趣味、価値観や強みなどをお聴きし、その内容を入居前に全職員が共有し、十分にコミュニケーションを図りながら、本人との信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの介護状況を把握しながら十分に時間を割いて面談し、ご本人が安心して暮らすために必要な配慮等を話し合い、ご家族にも安心していただけるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の主訴に耳を傾け、今どんな支援が必要なのかを見極め、他のサービス利用の必要性も検討しながら丁寧に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの状態を把握した上で、得意な事やできる事は一緒に行ったりお願いしたりして、お互いに頼り頼られるような良い関係づくりができるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	洗濯の協力や必要な物の購入・持参などをお願いしながら、ご家族から気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりに努め、本人と家族の絆が途切れてしまわないよう配慮している		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により感染予防の観点から平時と違った状況ではあるが、これまでのかかりつけ医への通院介助や、行きつけの美容院への送迎などをご家族にお願いし、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用型デイ利用者も含め、利用者同士の相性や関係性について職員同士で話し合いを持ち、みんなが関わり合い支え合いながら、和やかに過ごせるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への入所が決まったり、長期入院によりサービスが終了しても、本人や家族に不利益が生じないよう、情報提供をしっかりと行ったり、必要に応じて相談に乗ったりできるよう心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望や意向を言葉にすることが難しい利用者が多いが、日々の関わりの中で、本人の言動や表情等から思いや意向を汲み取るよう努め、本人本位の支援ができるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族からお聴きした情報や、以前利用していたサービス事業所からの情報等を把握し、入居後も家族の来訪時や本人との日常的な会話の中から積極的に把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りノートを確認しながら、日々の関わりの中で、本人がどのように過ごしたいと思っているのか、また、今どんなことができるのかを常に考え、職員同士で話し合いながら、個々の現状に即した支援を心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な会話の中で本人からよく聞かれる言葉や様子、家族からの要望、主治医や看護師からの指示・アドバイス、そして、ユニット会議で出された職員の意見等を反映させながら介護計画を作成しており、3ヶ月毎に見直している。また、入院等で状況が変化した場合はその都度見直している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノート・日常生活チェック表・介護日誌に一日の様子や出来事、また、気づきや変化を記入し、勤務前に必ずそれらを確認し、情報を把握してから勤務に入るようにしており、介護計画の見直し時にもそれらを活用している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍により、外部の方々とは以前のような交流はできない状況ではあるが、地域のマンパワーとの協力関係を大切にし、また、ボランティア団体の受け入れ・交流などを通じて、入居者様が安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医からは月2回の訪問診療や体調不良・急変時の相談にのっていただき、ご本人の状態や家族の意向で、かかりつけ医以外の医療機関を受診する場合でも、各医療機関と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している</p>			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の健康管理を徹底し、利用者の状態変化や気づきを適切に医療職に伝え指示を受けることで、適切な処置・受診が受けられるよう支援している</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院する際は必ず職員が付き添い、これまでの経過や基本情報を口頭と書面にて病院関係者に伝えると共に、家族から病状を聞くなどして、病院関係者・家族・主治医と連携しながら、治療の進捗状況や早期退院に向けての相談・情報交換を行っている</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応に係る指針を作成しており、入居時に家族に十分説明を行っている。また、事業所でできることについても家族にお伝えし、終末期における意向も確認している。そして、実際に重度化した場合、再度、家族の意向を確認した上で主治医と相談しながら、チームワークで終末期ケアの支援に取り組んでいる</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成常備し、全職員が確認できるようになっており、実践力を身に付ける為、消防署の協力を得て、定期的に心肺蘇生法(AED操作等)の研修・訓練を実施している			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や委託業者の協力を得ながら、火災・地震・水害等を想定しての緊急駆け付け・通報・指定避難場所への避難・初期消火訓練等を定期的実施しており、今年度は夜間帯に火災が発生したことを想定しての机上でのシミュレーション研修と実践を行う予定である			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないようなケアの実現に向け、入居前に得た情報やセンター方式を用いて、これまでの生活歴などを詳細に把握したり、コンプライアンス・不適切ケア等の研修を行ったりして、声かけや接遇には十分留意しながら日常業務に当たっている			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者になるべく自己決定できるよう、分かり易い言葉遣いや説明を心掛け、職員に何でも頼めるような信頼関係の構築や和やかな雰囲気づくりに努めている			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で一人ひとりのペースを把握し、そのペースやその日の心身の状況に合わせてながら、職員の都合に合わせてことなく、本人の希望に沿った過ごし方ができるよう心掛けている			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張床屋に散髪してもらい、男性利用者には毎日髭剃りの声かけや介助を行っている。また、家族が準備してくれた衣類でその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のすぐ傍で調理しているので、野菜を切る音を聞いたり、美味しそうな匂いを嗅ぎながら、食事を楽しみにして下さっており、肉を魚に変える等、好みの配慮も行っている。また、片付けなど、できる範囲で手伝いもお願いしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを基に調理し、一日の必要量が確保できるよう、食事・水分摂取量を毎回記録し情報を共有している。また、一人ひとりの状態に合わせ、食事時間を早めたり食事形態を工夫したりしている		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員が口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後に一人ひとりの状態に合わせてながら声かけや介助を行い、口腔ケアを徹底している		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄状況を排泄チェック表に記入することで、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それを基に職員間で確認しながら、さりげなく声かけ・誘導を行ったり、尿・便意のサインを見落とさないよう気配りしながら、できるだけ排泄の失敗を少なくするよう努めている		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は身体面のみならず、精神面にも影響を及ぼすという認識の下、排便状況を把握し、適切にコントロールできるよう、散歩・軽体操を促したり、水分を多めに提供するなどして、できるだけ自然排便できるよう取り組んでいる		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	清潔保持の観点から、全員が原則週2回は入浴できるように曜日設定しているものの、本人の希望や身体状況に合わせて、入浴日や時間帯の変更については臨機応変に対応。また、安全面を考慮して、リフト浴にしたり、二人対応で介助したりしている		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況、また、その時々希望により、ソファーや居室で休息していただいている。また、安眠の支援としては、日中の過ごし方を工夫したり、安心して休んでいただけるような声かけをしながら、眠くなるまで傍について話を傾聴したり、温かい飲み物を提供したりしている		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の効能書きを綴り、臨時薬が処方されたり用量の変更があった際は申し送りノートとケース記録にも記載して職員間で情報共有すると共に、症状の変化については見逃さずにかかりつけ医に定時・随時に報告している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や趣味の情報を基に、その方が持っている力を引き出せるような役割を考え、その役割を果たすことで生活に張りを持っていただけるよう配慮している。また、塗り絵・パズル・歌・散歩等、それぞれが楽しんで行えるようなプログラムを提供し気分転換していただいている</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナ禍前は利用者から要望を聞いた上で海や山へドライブに出かけたり、外食支援を行ったり、また、家族と一緒に外出も歓迎してきましたが、今年度は通院外出と、人混みを避けての季節を感じられるようなドライブを企画しての最低限度の外出の機会を設けるに留まっている</p>			
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な物があれば家族に連絡し購入していただくか、ホームの立て替え払いを基本としているが、本人の能力や希望に応じ、家族と相談の上金銭の所持を認め、適切に管理できるよう見守っている</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の要望に応え、いつでも電話で話せるように援助している。また、受け取った手紙やハガキと一緒に読んで聞かせたり部屋に飾るなどして、家族等との交流が図れるように支援している</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物の採光等を含め、利用者に配慮したつくりになっており、施設内を適温に調節するよう心掛け、施錠はせずに開放感のある共用空間となっている。また、食事作りの臭いが生活感を漂わせ、ホールや廊下には季節行事を楽しんだ写真を掲示したり、その季節の花を飾ったりして、季節を感じながら居心地よく過ごしていただけるよう工夫している</p>			
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にソファが設置してあり、独りでゆっくりくつろいでいただけるようになっている。また、通所利用者も含め、利用者の状態や関係性に配慮しながら、ユニット全体が和やかにコミュニケーションが図れるような居場所の工夫を行っている</p>			

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や馴染みの物を居室に持ち込んでいただき、壁には家族写真を貼ったりして、在宅時と同じように居心地よく過ごしていただけるよう配慮している		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりの設置・福祉用品の活用等で安全に配慮すると共に、居室の入り口の飾りで自室と分かるように工夫したり、トイレの場所を表示するなどの工夫をして、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している		